

具体的なプロジェクト

【観光】

- ①サバ街道サイクルリングを基軸とした畿北地域の再生・活性化
- ②敦賀観光活性化
- ③若狭湾周辺観光魅力アッププロジェクト

【地域資源最大化】

- ④小浜線サービス向上による利用促進策
- ⑤脱炭素をはじめとするSDGsの推進

【総合林産業】

- ⑥京都北山林業と地域の再生

JAPIC国土・未来プロジェクト研究会
畿北ブロック総合開発ワーキンググループ

総括版執筆者

主査	中村 英夫	東京都市大学 名誉総長 (JAPIC国土・未来プロジェクト研究会 最高顧問)
	丸川 裕之	(一社)日本プロジェクト産業協議会
	林田 康洋	(一社)日本プロジェクト産業協議会
	吉川 正嗣	(株)建設技術研究所
	久野 暢之	パシフィックコンサルタンツ(株)

委員

(敬称略 50音順)

	秋田 晶	(株)秋田船具店
	秋山 隆	(株)ニュージェック
	石坂 久志	(株)復建エンジニアリング
	伊藤 太郎	(一社)日本プロジェクト産業協議会
	今井 稔	(一社)建設コンサルタンツ協会
	大脇 崇	(公社)日本港湾協会
	久野 暢之	パシフィックコンサルタンツ(株)
	酒井 芳一	(一社)建設コンサルタンツ協会
	佐々木 宏	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	塩崎 正孝	(株)IHI
	白石 哲也	(一社)港湾荷役システム協会
◎	須野原 豊	東洋建設(株)
	角田 光男	インフラジャーナリスト
○	東福 忠彦	前田建設工業(株)
	中川 雄一	(一社)日本プロジェクト産業協議会(現 鹿島建設(株))
	林田 康洋	(一社)日本プロジェクト産業協議会
	平田 憲光	前田建設工業(株)
	福田 功	(一財)沿岸技術研究センター
	藤本 貴也	パシフィックコンサルタンツ(株) (JAPIC国土・未来プロジェクト研究会 委員長)
	丸川 裕之	(一社)日本プロジェクト産業協議会
	村本 哲二	東洋建設(株)
	吉川 正嗣	(株)建設技術研究所
	吉田 秀樹	八千代エンジニアリング(株)

(◎WG長、OWG長代理)

提言プロジェクト ②

敦賀観光活性化

敦賀観光の現状と課題

■R6.3 新幹線敦賀延伸開業＝敦賀がターミナル駅に
→欧亜国際連絡列車以来のインパクト

■敦賀のアイデンティティーの源は？

→古代から現代にいたる「みなと」の存在
(北前船／琵琶湖運河計画／欧亜国際連絡列車をはじめと
した明治～戦前の国際港としての興隆)

■敦賀の課題(観光/魅力)

①低い認知度

→豊富な歴史資産が十分活用されていない。

(金ヶ崎の戦い/北前船/欧亜国際連絡列車/杉原千畝など)

②脆弱な二次交通

→敦賀駅から市内観光資源へのルートはバス路線のみ。
歴史ある敦賀港線は廃止され再利用は不可能。



未曾有のインパクト 北陸新幹線



旧敦賀港線 敦賀港駅

【敦賀観光活性化】

敦賀観光活性化プロジェクトの提言

■プロジェクト名 旧敦賀港線を活用したモール化と自動運転電動バス導入

■プロジェクト内容

① トランジットモール化による観光拠点の魅力向上

- ・金ヶ崎地区(国際港、ムゼウム)
- ・敦賀港線跡(欧亜国際連絡列車)
- ・新つるがさかなまち
- ・博物館通り(旧大和田銀行)に重点

② 各拠点を結ぶ回遊ルートの形成

- ・敦賀駅～敦賀港線跡～金ヶ崎(敦賀港)
- ・金ヶ崎～船だまり※～博物館(旧大和田銀行)～カツ井駅～気比神宮～敦賀駅

※かつての琵琶湖運河計画の起点



敦賀観光活性化プロジェクトの推進方策

- モールを活用した地元の魅力創出
食を楽しむ道:ソースカツ丼・かに・ふぐ・昆布など
寺社を巡る道:気比神宮・金崎宮など
歴史に触れる道:杉原千畝・大谷吉継・港・鉄道(欧亜国際連絡列車)など
- モールを活用した賑わい拠点創出
博物館通りを「大市場」として整備
(清明の朝市、出店・屋台、地元産品飲食・物販等)
- 敦賀港線跡の道路への転換
レールは残して道路整備
人と自動運転電動バスだけ通行可のモールとする
- 乗りたくなる車両の導入
電動自動運転バスの導入／歴史ある意匠性
- 行政・住民等による活性化への機運醸成
- 日本遺産「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄道のキセキ～」も活用した地域連携・観光PR



ソウルフード ソースカツ丼



博物館通り(旧大和田銀行)



観光電気バス事例
(出典：川越市HP)

敦賀観光活性化プロジェクトの課題

- トランジットモール整備に向けた事業化策・制度づくり
 - ・沿道住民・事業者の理解
 - ・事業主体
 - ・整備資金
- 地元権利者との調整
 - ・金ヶ崎地区(JR貨物)
 - ・博物館通り(住民)
 - ・敦賀港線(JR貨物、道路管理者、警察)
- 敦賀駅でのバスへの円滑なアクセス・接続
- 住民の「自分事」感の醸成と官民挙げての体制づくり



海外事例：カールスルーエ（ドイツ）



海外事例：デンバー（アメリカ）

提言プロジェクト ③

若狭湾周辺観光魅力アッププロジェクト

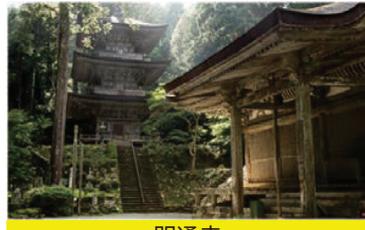
若狭湾周辺地域の現状と課題

- 若狭湾周辺にはリアス式海岸などの景勝、多くの観光施設、神社仏閣が存在
⇒各々が分散し、さらに半島形状となっているので、移動効率の改善が必要
- 小浜線は周辺地域の人口減の影響もあり、鉄道利用者数が減少傾向
⇒利用者数の維持増加を図るためには、地域への観光客数の増加が必要
- 周辺地域での観光振興は、各自治体の個別対応が中心
⇒各自治体間の広域連携により観光ポテンシャルの一層の向上が必要

景勝地、観光施設



蘇洞門
(福井県観光サイト ふくいドットコムより)



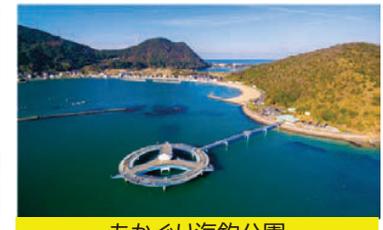
明通寺
(福井県小浜市公式行政サイトより)



若狭歴史博物館
(福井県博物館協議会サイトより)



御食国若狭おばま食文化館
(福井県観光サイト ふくいドットコムより)



あかぐり海釣公園
(おおい町観光協会サイトより)



日引の棚田
(若狭高浜観光協会公式サイトより)



白浜・鳥居浜海水浴場
(若狭高浜観光協会公式サイトより)



うみんぴあ大飯
(おおい町観光協会サイトより)



赤碓崎オートキャンプ場
(株式会社おおいHPより)

【若狭湾周辺観光魅力アッププロジェクト】

「観光魅力アップ」の提言

■半島周遊サイクリングルートの形成

- ・自転車積載可能な海上タクシーの運航(半島間及び外海ルート)
- ・海上タクシーにはSDGsへの対応としてEV船(電気船)を導入

■地域観光資源のパッケージ化

- ・景勝地、神社仏閣、グルメ、マリンスポーツなど



プロジェクトの推進方策

- 若狭湾が敦賀～舞鶴・京丹後の間に位置することを最大限活用
 - ⇒ 敦賀～若狭～舞鶴・京丹後を繋ぐ観光ルートを構築し、幅広く誘引
 - ・ 東京、名古屋、京都・大阪から敦賀経由で訪れる観光客
 - ・ 舞鶴、京丹後から若狭地域にアクセスする観光客
 - ・ 鯖街道サイクリングルートを通して訪れるサイクリスト
 - ⇒ 若狭湾周辺で丸一日過ごせるキラコンテンツの強化
 - 御食国(みけつくに)海産物市場、
 - 自然文化歴史体験ツアー、
 - 人工サーフィン場、フィッシング等

- インバウンドをターゲットとしたブランディング
 - ⇒ SNSの利用など多様な情報発信方法活用による知名度の向上

- 観光振興策の実施に対応できる多様な人材の育成・活用



プロジェクトの効果と課題

(1) プロジェクトの効果

御食国として歴史的に京都や京文化へ深い影響を与えた小浜周辺において、周回サイクリングルートやグルメ、文化歴史、マリンスポーツ施設等を提供

- 国内外からの観光客増加による新たなビジネスチャンスの創出
(地域産品飲食・物販、宿泊、地域ガイド等)
- 京都のオーバーツーリズムの緩和に寄与(神社仏閣回遊観光客の分散)
- 雇用機会の増加による、人口低下・若年層流出の抑制

(2) 事業推進に向けた課題

- 漁業、遊覧船など地元関係者との合意形成
- 自治体・関係機関間の連携強化
- 既存観光施設(うみんぴあ大飯等)との連携
- 損傷の著しい神社仏閣など有形文化財の修復や、周辺環境の整備

海上周回サイクリングのイメージ
(内湾海域を対象としたEV船例)



提言プロジェクト ④

小浜線交通サービス向上による利用促進策

【小浜線サービス向上による利用促進策】

小浜線交通サービスの現状と課題

<現状>

- 小浜線:単線、利用者数減少の一途
- 交通サービス:ICカード未対応



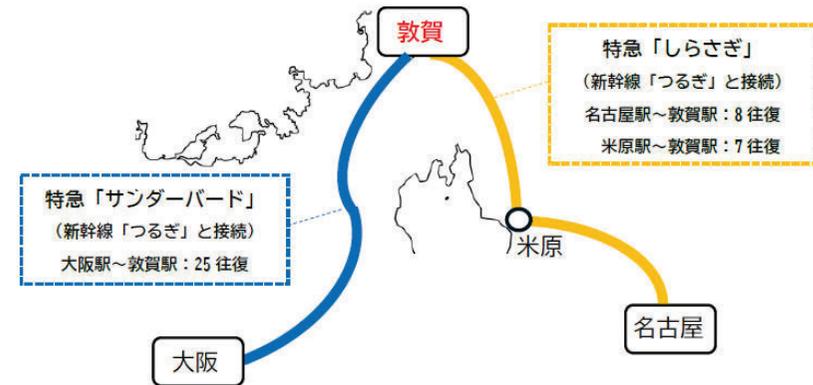
<新幹線延伸に伴う変化>

- 特急は敦賀駅発着
- 北陸本線(金沢～敦賀)は三セク化
IRいしかわ鉄道(金沢～大聖寺)
ハピラインふくい(大聖寺～敦賀)



<課題>

- 増加・多様化する来訪者の小浜線沿線への誘客
⇒ インバウンド、サイクリスト、寺巡り等に応える交通サービスの向上
- 嶺南地域の活性化の基盤形成が目標



【小浜線サービス向上による利用促進策】

プロジェクトの提言(1) サイクリスト向けサービスの導入

- サイクルトレインの導入
- サイクルバスの導入
- 駅舎のサイクリングステーション化
(休憩、メンテ、情報、土産物等)



サイクリングの出発拠点となるサイクルステーション
(土浦駅の例) 写真提供：TABIRIN



スペインカタルーニャ州鉄道 (出典：国交省HP)



伊豆 サイクルバス (出典：伊豆市HP)

【小浜線サービス向上による利用促進策】

プロジェクトの提言(2)－小浜線のサービス

■ 小浜線とハピラインふくいの乗り入れ拡充

- ・ 現行の臨時貸切運行の通常運行化



出典：
若狭湾観光連盟HP

■ 小浜線の高速化と安全対策の強化

- ・ 待避施設追加整備(追い越し可能に)
- ・ 防風柵・シェルター整備(風雨による運行停止回避)

■ 電子決済・MaaS導入

- ・ 円滑な移動のサポート
- ・ 観光地、飲食店などとの連携による目的地の効果的なPR



【小浜線サービス向上による利用促進策】

プロジェクトの効果

- 小浜線の利用者増加(シームレス化／時間短縮効果)
- サイクリストの鉄道利用の増加(サイクルトレイン、サイクルバス導入による新規需要の開拓)
- 電子決済・MaaS導入による利用者の増加(潜在需要の掘起し＋インバウンド需要の増加)

- 事業推進に向けた課題
 - 沿線住民、観光事業者との連携
 - 交通事業者との合意形成
 - 官民協働(施設整備における公的助成等)

提言プロジェクト ⑤

脱炭素をはじめとするSDGsの推進

【脱炭素をはじめとするSDGsの推進】

世界・日本の潮流と嶺南地区の現状

■世界の潮流は脱炭素、生物多様性、教育をはじめSDGs目標達成

■日本

①脱炭素

2030年度にCO₂ 46%削減(2013年度比)

2050年 カーボンニュートラル CO₂排出実質ゼロ

②生物多様性

2030年までに生物多様性の損失食い止め、回復

2050年までに自然と共存する社会の実現

■嶺南の現状

- ・福井県は全47都道府県幸福度ランキング(日本総合研究所)で常にトップ
- ・脱炭素に寄与する原子力の供給拠点エリア
- ・福井県長期ビジョンで、2050年 CO₂排出実質ゼロを表明



福井県原子力環境監視センターHPより

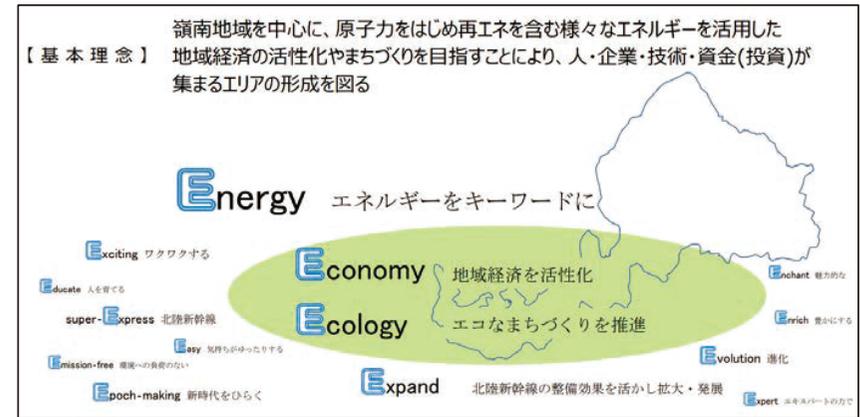
【脱炭素をはじめとするSDGsの推進】

嶺南地区の現状と課題

■嶺南Eコースト計画など

- ①原子力関連研究の推進と人材育成
- ②様々なエネルギーを活用した地域振興
- ③多様な地域産業の育成
- ④石炭火力発電へのバイオマス・アンモニア混焼によるCO₂排出削減

嶺南Eコースト計画の全体像

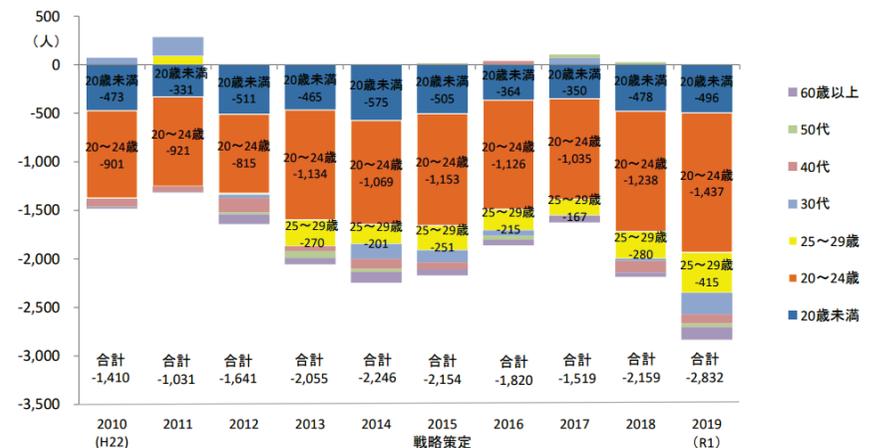


福井県資料より

■嶺南における課題

- ・原子力施設があることによる人材・投資・技術等の蓄積を、これまで以上に地域のために活用すべき
- ・地域において原子力や再生可能エネルギー産業など、SDGsの実現を担う人材が不足(若者の県外への流出。県外からの流入停滞・不足)

年齢階級別の社会的人口増減(県外移動)



(出典) 福井県の人口の動向と将来見通し(令和2年改訂版)

【脱炭素をはじめとするSDGsの推進】

プロジェクトの提言

■課題解決に向けた提言と推進方策と効果

【提言】

①福井大学SDGs学部の創設(国立大学法人初)

- ・SDGs17の目標向上させるための研究を志向
- ・文理融合で環境保全・環境教育・再生可能エネルギー、生物多様性、幸福度から、原子力の安全・利用拡大まで幅広く研究

②全国大学連携サテライトキャンパスの設置

- ・次代を担う国内外の若手研究者・学生等が集うキャンパス(教育の「溜まり」)

③若狭湾エネルギー研究センター(敦賀市)や発電所現場と連携した、課題解明のための研究推進

(参考)東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト



同大学HPより

若狭湾エネルギー研究センター



同研究センター資料より

【脱炭素をはじめとするSDGsの推進】 プロジェクトの推進方策と効果

■推進方策

①福井大学SDGs学部の創設

- ・交付金の積極的な活用

②全国大学連携サテライトキャンパスの設置

- ・各大学との連携

東大社会科学研究所(幸福学研究のメッカ)

京大環境・エネルギー・原子力部門

東京都市大学(原子力安全工学科)、早稲田大学(共同原子力専攻)等

■効果

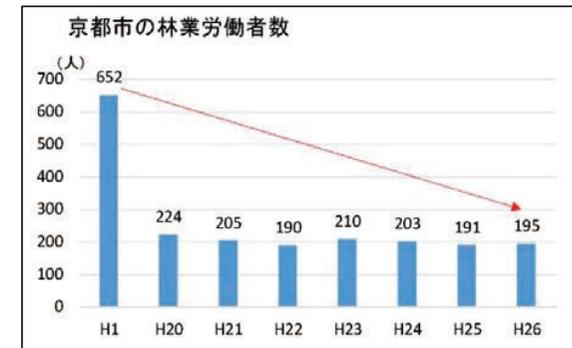
- ・若者の地元定着・雇用拡大＝卒業生が電力・建設会社、自治体などに就職
- ・交流人口、関係人口の拡大＝東京・関西などのSDGs、再生可能エネルギーを学ぶ学生や研究者の現地研究・研修の場所

提言プロジェクト ⑥

京都北山林業と地域の再生

京都北山林業の現状と課題

- 京都の北山林業は600年の歴史を有し日本最古。北山杉の磨き丸太は伝統家屋の床柱に利用され、かつては高付加価値の銘木。
- 日本家屋の減少で需要は激減。生産はピーク時の1/10。
- 後継者の不足
 - ・ 京都市も林業労働者の減少は顕著。とりわけ北山杉の中核の中川地区では60%以上が65歳以上の高齢者
 - ・ これまでにない使い方、販売ルートの開拓が急務



「京都市域における集中的な森林整備に向けた検討会議」資料より

【京都北山林業と地域の再生】

北山杉の新たな需要開拓と林業の高度化

■床柱だけではない、新たな北山杉の需要拡大と京都産材のブランド化

- ・木目を活用した意匠材としての活用
- ・京都府産材を需要家と直結した「ブランド化の展開」「京都府産材の家」
- ・鯖街道の休憩所・文化施設等へ積極的に利用し、ショールーム化
- ・京都伝統工芸産業との連携(仏具、家具)
- ・海外富裕層向けへの販路拡大

■林道の路網整備、機械化等による林業の高度化、人材育成

- ・京都府の林道密度は全国に比して低位
※京都府:3.7m/ha、全国:5.1m/ha(京都府HPより)
- ・林道整備と合わせた、林業機械の導入
- ・林業大学校等を通じた、林業人材の育成

■未整備の山林部地籍調査の推進



北山杉を活用した家具

【京都北山林業と地域の再生】

プロジェクトの推進方策

■行政、川上・川中・川下の業者による新たなサプライチェーンによる需要開拓

- ・京都市が民間企業と「建築物等における北山杉の利用促進協定」を締結。取り組みを開始。

【協定締結者】

(行政) 京都市

(利活用者) 三井住友信託銀行(株)、(株)内田洋行、菊池建設(株)、ナイス(株)

(生産者) 京都北山丸太生産協同組合、京北銘木生産協同組合



林野庁HPより

■業界横断的な北山杉利用例のPR

- ・国内外へPRする広報の強化
- ・JAPIC「林業復活・地域創生を推進する国民会議」との連携

■導入された森林環境税の重点投入。



第8回「林業復活・地域創生を推進する国民会議」の様子(2022.10)

【京都北山林業と地域の再生】

関連する施策、プロジェクトの効果

■ 林業地域資源の活用

- ・中山間地域のスローツーリズムによる活性化
ex. 古民家民宿による誘客
サイクルツーリズムによる活性化 等
- ・林業体験等を通じた、地域関係人口の拡大



古民家を活用した民宿施設

■ プロジェクトの効果

- ・伝統ある北山林業の維持と、それに伴う中山間地域の活性化。
- ・北山杉の美しい景観保全、生物多様性の維持。
- ・都会から比較的近い、貴重な自然の保持 等



北山杉の美林